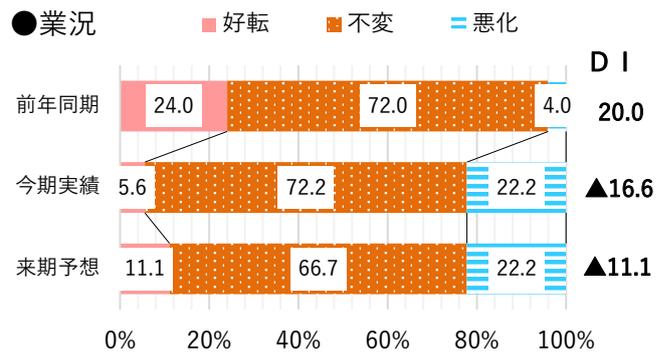


# 建設業

## 業況、売上、採算

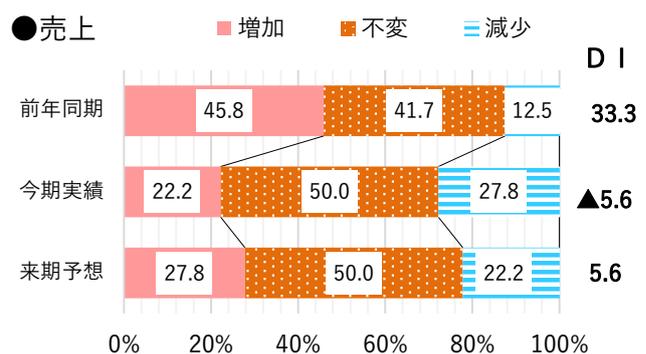
今期（2025.10～12）の業況判断DIは▲16.6で、前年同期（2024.10～12）と比べ36.6ポイントと大幅に低下しました。

来期（2026.1～3）の業況DIは今期（2025.10～12）と比べ5.5ポイント上昇すると予想しています。



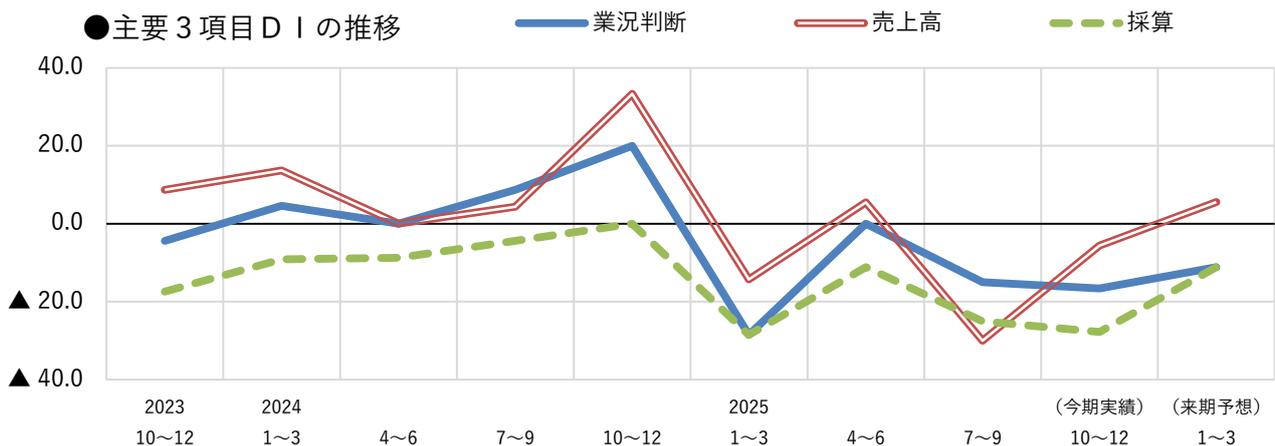
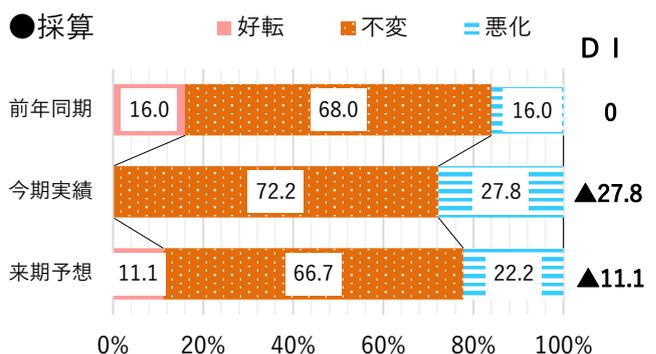
今期の売上高DIは▲5.6で、前年同期と比べ38.9ポイントと大幅に低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ11.2ポイント上昇すると予想しています。



今期の採算DIは▲27.8で、前年同期と比べ27.8ポイント低下しました。

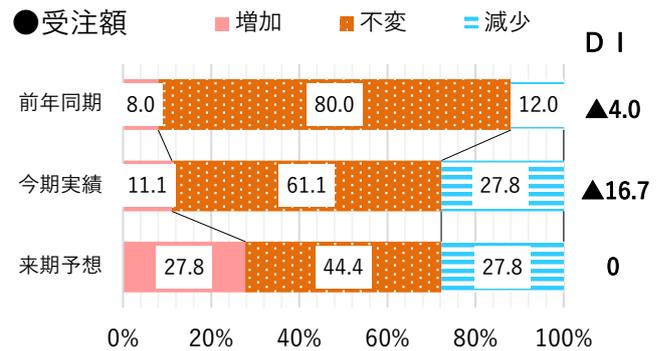
来期の採算DIは今期と比べ16.7ポイント上昇すると予想しています。



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

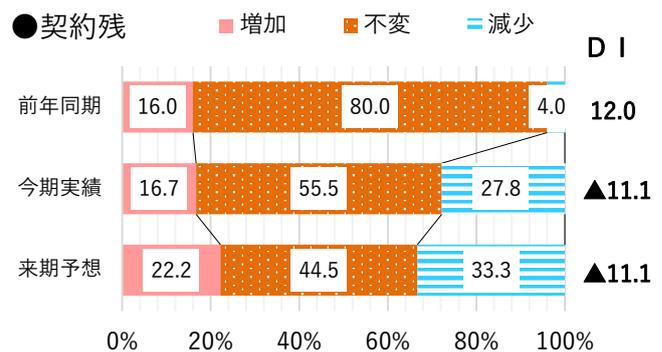
今期の受注額DIは▲16.7で、前年同期と比べ12.7ポイント低下しました。

来期の受注額DIは今期と比べ16.7ポイント上昇すると予想しています。



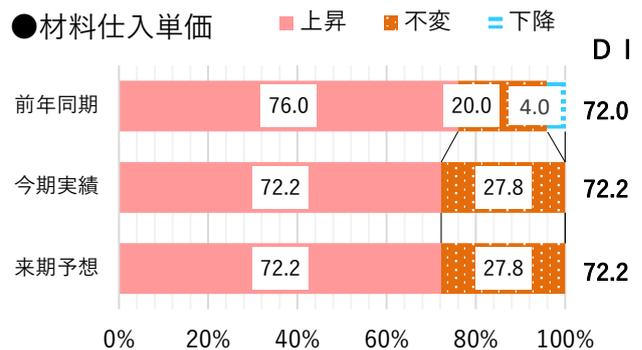
今期の契約残DIは▲11.1で、前年同期と比べ23.1ポイント低下しました。

来期の契約残DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



今期の材料仕入単価DIは72.2で、前年同期と比べ0.2ポイント上昇しました。

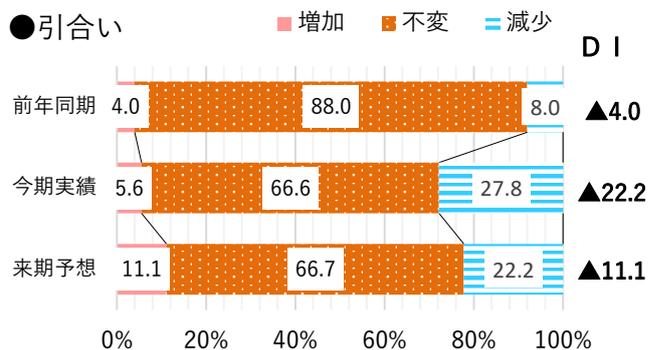
来期の材料仕入単価DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲22.2で、前年同期と比べ18.2ポイント低下しました。

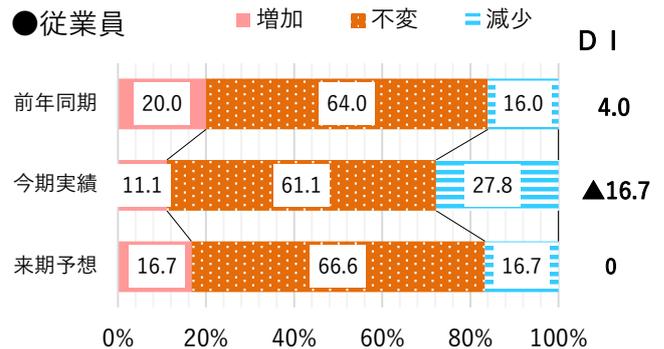
来期の引合いDIは今期と比べ11.1ポイント上昇すると予想しています。



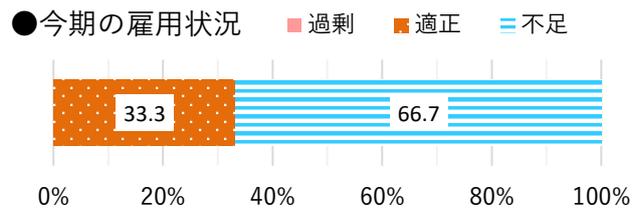
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲16.7で、前年同期と比べ20.7ポイント低下しました。

来期の従業員DIは今期と比べ16.7ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は33.3%、不足していると回答した企業の割合は66.7%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、33.3%を占めました。

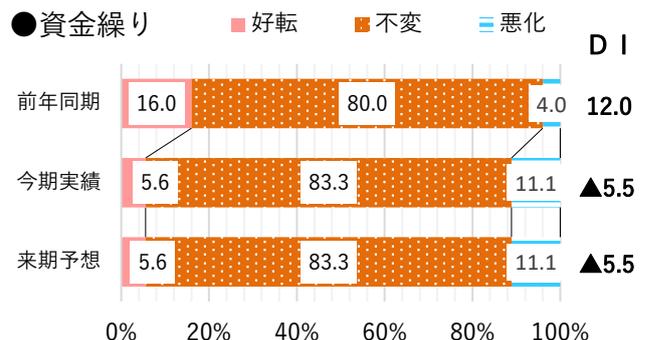
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	5.6%
	不足	5.6%
不変だった	過剰	0%
	適正	27.8%
	不足	33.3%
減少した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	27.8%

※回答総数18社

資金繰り、設備投資

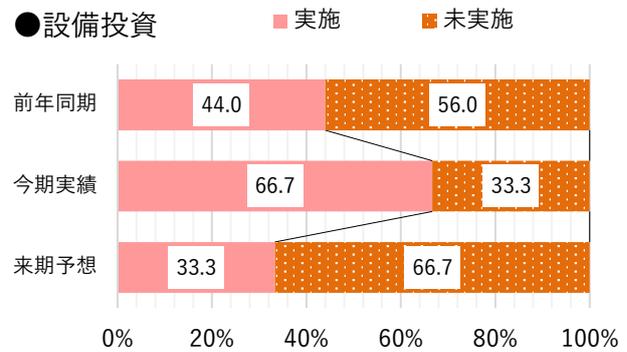
今期の資金繰りDIは▲5.5で、前年同期と比べ17.5ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ変化なしと予想しています。



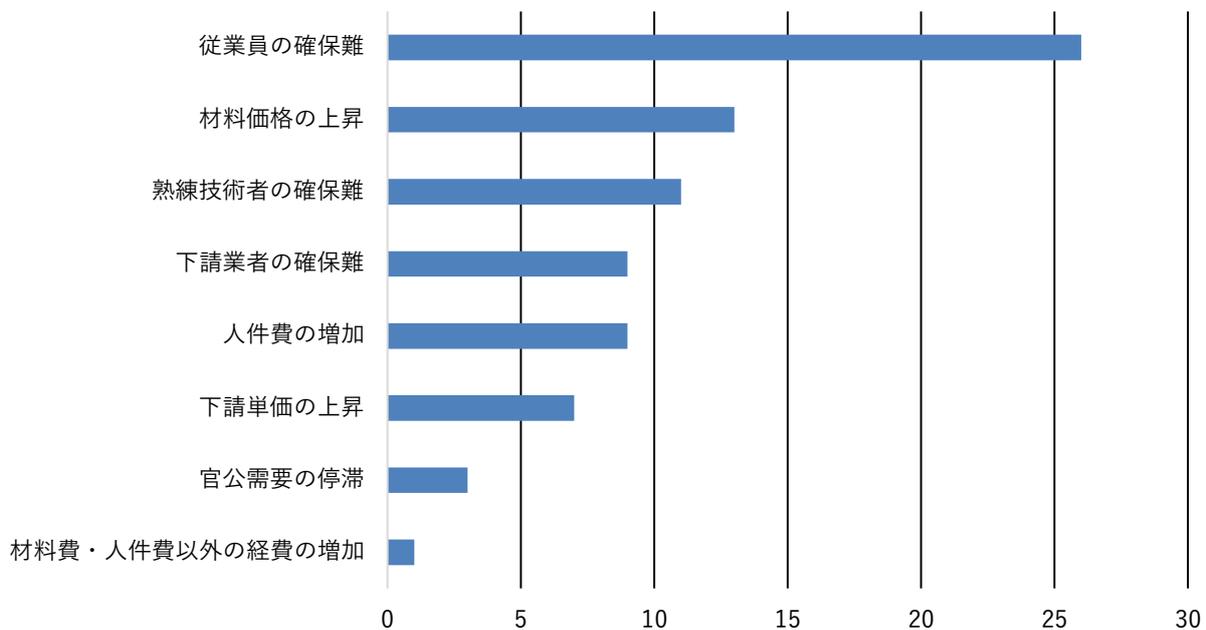
今期の設備投資は66.7%が実施と回答し、前年同期と比べ22.7%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」でした。

来期は33.3%が設備投資を計画していると回答しています。



### 経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料価格の上昇」、3位が「熟練技術者の確保難」の順です。



### 企業の声

[今期の業況について]

- 仕入価格、売上額が上昇した。(一般土木工事業)
- 人材不足が課題である。(一般土木工事業)
- 請負工事が減少した。(設備工事業)
- 人員確保が困難で、売上額が減少した。(造園業)
- 必要受注額が確保できていない。(一般管工事業)
- 工事量に対して作業員が不足した状況が続いている。(電気工事業)

[来期の業況について]

- 人材不足は不変と予測する。(一般土木工事業)
- 請負が回復の見込み。(設備工事業)

- 好転すると判断する材料に乏しい。（造園業）
- 時期的に受注不足を挽回することが難しい。（一般管工事業）
- 工事量に対して作業員が不足した状況が続くと予想する。（電気工事業）